

文化

Culture |



『青いドラゴンになった女の子』の表紙

絵本『青いドラゴンになった女の子』

三浦さん(南部町出身)が出版

心の揺らぎ 独自の世界観で

南部町出身の三浦恭子さん(55)が、「雪の結晶の雫」のペンネームで、幻冬舎から電子書籍の絵本『青いドラゴンになった女の子』を出版した。主人公の女の子が友達との心の擦れ違いから、悲しみのあまりドラゴンになってしまうというストーリー。少女の内面の揺らぎを独自の世界観で描いており、三浦さんは「読んでくれた人にとって自分の心を見詰めるきっかけになれば」とPRする。

三浦さんは2012年からユーチューブで映像の絵本を発信したり、DVD絵本『えんぶり』を制作したりするなど、独自の活動を続けてきた。イラストはパソコンで描く。デジタル画の場合、専用のペンで操作するペンタブレットが主流だが、三浦さんは約30年前からマウスを使っており、「よく驚か



『青いドラゴンになった女の子』をPRする三浦恭子さん

内面の弱さに 寄り添い描く

れるけど、特に不自由は感じないですよ」と笑う。出版のきっかけは幻冬舎ルネッサンス新社主催の「第1回子育て絵本大賞」。三浦さんは同作を応募し、落選。しかし、出版社側からの声掛けがあり、電子書籍での出版が決まった。本作の主人公の「メイユイ」は5歳の誕生日、友達の小鳥に話し掛けるも

の、素っ気ない態度を取られる。彼女はネガティブな感情にのみ込まれて、青いドラゴンに姿を変えてしまう。

実は、この友達の行動には理由がある。「メイユイは自分の視点でしか、物事を見られなかったため、悲しみを抱えてしまう。そんな彼女が『ああ、そうなんだ』と気付きを得て成長するまでの物語」と三浦さんは語る。

ユーチューブで配信している作品でも、人間の内面の弱さに寄り添ったストーリーが多い。「『心との対話を基に描いていくこと』が私の命題」と三浦さん。「皆が自身の心のつらさに向き合い、前向きになれる絵本を書いていきたい」。創作意欲はまだまだ尽きない。

『青いドラゴンになった女の子』は税込1320円。アマゾン、楽天ブックスなどで販売している。

(小林彩乃)